茨城県立古河第二高等学校 教科シラバス

教科名	科目名	単位数（時間数）	学科・学年
福祉	生活支援技術	4単位（140時間）	福祉科・1年
教科書（発行所）	生活支援技術（実教出版）		
教科書以外の教材（発行所）	生活支援技術Ⅰ（中央法規） 生活支援技術Ⅱ（中央法規）		
目標	○自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価方法	☐ 授業への参加姿勢、ノートに記載充実度。課題・宿題等の提出状況と内容充実度。 ☐ 演習への参加状況、実技練習への取り組み姿勢及び実技試験結果。 ☐ 定期考査における得点。		

月	学習内容	ねらい	学習活動
4	オリエンテーション	・使用教材と授業概要を知る。	
5	第1編 生活支援の理解 第1章 生活の理解 (1)生活とは (2)生活形成のプロセス	・生活とは何か、その定義について理解した上で、要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を理解する。	☐ 講義
6	第2章 生活支援の考え方 (1)生活支援の考え方 (2)尊厳の保持と自立支援 (3)介護予防とリハビリテーション (4)福祉用具の活用 (5)介護従事者の健康管理と感染予防対策	・高齢者疑似体験、視覚障害者体験、車いす体験など、体験を通して、介護を必要とする方々の感情を理解できるようにする。	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク
7	第3章 生活支援と介護過程 (1)生活支援におけるアセスメント (2)ICFの視点にもとづく生活支援	・その人らしさの表現とともに、ICFの視点を活かした望ましい介護にあり方を理解する。	☐ 講義 ☐ DVD視聴
8	第4章 多職種協働と他の専門職の役割 (1)生活支援における多職種協働 (2)生活支援における他の専門職の役割	・よりよい介護の提供に向けて、多職種が協働してサービスを提供することの意義や目的について知る。	
8	～夏期休業～		
9	第2編 自立に向けた生活支援	・利用者に応じた安全で快適な居住	☐ 講義

10 第1章 居住環境の整備 (1)居住環境整備の基本理念 (2)快適な居住環境 (3)高齢者および障害者の住まい 第2章 家事の支援 (1)家事支援の意義と目的 (2)調理、食品の保存、衛生管理 (3)洗濯 (4)掃除・ゴミ捨て (5)裁縫 (6)衣類・寝具の衛生管理 (7)買物 (8)家庭経営・家計の管理	環境の整備について、意義や目的とともに価値観を尊重した居住について理解する。 ・家事の介護に関する意義、目的を理解している。 ・利用者の心身の状態および生活の状況に応じた家事の介護に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。	☐グループワーク ☐講義 ☐グループワーク
11 第3章 身じたくの支援 (1)身じたくの意義と役割 (2)身じたくの支援の技法	・身じたくの介護に関する意義、目的と身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。	☐講義 ☐演習 ☐グループワーク
12 第4章 移動の支援 (1)移動の意義と目的 (2)移動の支援の技法	・移動の介護に関する意義、目的を理解する。 ・ボディメカニクスを活用した技術を身に付ける。	☐講義 ☐演習 ☐グループワーク
1 第8章 睡眠・休養の支援 (1)睡眠・休養の意義と目的 (2)睡眠・休養の支援の技法	・睡眠の意義、目的を理解する。 ・安眠に向けた環境整備の方法など睡眠の介護に関する基礎的な知識と技術を理解する。	☐講義 ☐グループワーク
2 第9章 レクリエーションの支援 (1)レクリエーションの意義と目的	・利用者の生活を活性化させ、生きる意欲を維持できるようなレクリエーションの支援について理解する。	☐講義 ☐演習 ☐グループワーク
3 (2)レクリエーションの支援の技法	・レクリエーションの意義や目的、利用者の状態に考慮したレクリエーションのあり方など考察し実践する	
担当者からのアドバイス	●授業内容や指示の聞き逃しを避けるため、欠席しないように努めましょう。 ●授業後及び考査前には十分に復習し、理解の促進と知識の定着を図りましょう。 ●実技練習に積極的に取り組み、基礎介護技術を身に付けましょう。 ●課題や宿題などは指示された期日を守って提出しましょう。	

教科名	科目名	単位数（時間数）	学科・学年
福祉	生活支援技術	2単位（70時間）	福祉科・2年
教科書（発行所）	生活支援技術（実教出版）		
教科書以外の教材（発行所）	生活支援技術Ⅰ（中央法規） 生活支援技術Ⅱ（中央法規）		
目 標	○自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価方法	☐ 授業への参加姿勢、ノートの記載充実度。課題・宿題等の提出状況と内容充実度。 ☐ 演習への参加状況、実技試験への取り組み姿勢及び実技試験結果。 ☐ 定期考査における得点。		

月	学習内容	ねらい	学習活動
4	オリエンテーション	・使用教材と授業概要を知る。	
5	第2編 自立に向けた生活支援 第5章 食事の支援 (1)食事の意義と目的	・機能低下などの障害が食事に及ぼす影響を考えることができ、安全な食事の介護に関する基礎的な知識と技術を理解し、身に付ける。	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク
6	(2)食事の支援の技法		
7	第3編 緊急時・災害時の支援 第1章 緊急時の支援 (1)緊急時における支援の意義と目的 (2)応急手当の実際	・介護現場で起こりやすい緊急事態、緊急時の連絡方法や通報システム、応急処置について理解する。 ・日本赤十字社による救命救急法を学び、緊急時の対応方法を深める。	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク
8	～夏期休業～		
9	第6章 入浴・清潔保持の支援 (1)入浴・清潔保持の意義と目的	・安全・安楽な入浴や清潔保持の支援に関する基礎的な知識と技術を理解し、身に付ける。	☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク
10	(2)入浴・清潔保持の支援の事前準備や留意点 (3)入浴・清潔保持の支援の技法		
11	第2編 第7章 排泄の支援 (1)排泄の意義と目的 (2)排泄の支援の技法 (3)排泄障害の種類と対応		
12	(4)その他の排泄に関するさまざまな支援 第3編 緊急時・災害時の支援	☐ 講義	

1 2 3	第2章 災害時の支援 (1)災害時における介護従事者の役割 (2)災害時における生活支援 第4編 終末期の支援 第1章 終末期の支援 (1)終末期の支援の意義と目的 (2)終末期の支援における介護従事者の役割 第2章 死を迎える人への支援と留意点 (1)死を迎える人への具体的な支援場面 (2)死後のケア (3)グリーフケア	・災害時における支援の意義や目的、役割について理解し、対応・行動について考察する。 ・身体的機能停止に向かう過程を理解し、安楽な体位の工夫、食事・清潔のあり方について考え、支援方法を身に付ける。 ・利用者や家族の心理を理解し、生活習慣や価値観などの個別性の尊重、意思確認も含めた最期までその人らしく生きるための支援を学ぶ。	☐グループワーク ☐講義 ☐DVD視聴 ☐グループワーク
担当者からのアドバイス	●授業内容や指示の聞き逃しを避けるため、欠席しないように努めましょう。 ●授業後及び考査前には十分に復習し、理解の促進と知識の定着を図りましょう。 ●実技練習に積極的に取り組み、基礎介護技術を身に付けましょう。 ●課題や宿題などは指示された期日を守って提出しましょう。		

教科名	科目名	単位数（時間数）	学科・学年
福祉	生活支援技術	3単位（105時間）	福祉科・3年
教科書（発行所）	生活支援技術（実教出版）		
教科書以外の教材（発行所）	生活支援技術Ⅲ（中央法規）		
目 標	○利用者の個別性を理解するために必要な障害や疾病の知識を身に付ける。 ○各障害特性及び心理・生活を理解し、ニーズに応じた支援のあり方を理解する。 ○障害のある人の地域生活支援体制について理解し、今後の支援のあり方を考察する。		
評価方法	☐ 授業への参加姿勢，授業ファイルの記載充実度。課題・宿題等の提出状況と内容充実度。 ☐ 定期考査における得点。 ☐ 事例をとおして作成した記録用紙の内容と充実度。		

月	学習内容	ねらい	学習活動
4	オリエンテーション 1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	・使用教材と授業概要を知る。 ・障害や疾病とともに生活する人の背景を理解する。	☐ 講義
5	2 障害に応じた生活支援技術Ⅰ (1)肢体不自由に応じた介護	・障害者の人数と障害の定義と概念を理解する。 ・定義や原因疾患，心理・生活ニーズを理解し、支援のあり方を考える。 ・医学的側面から学び、生活上の困りごとを理解する。	☐ 講義 ☐ DVD視聴 ☐ グループワーク
6	(2)視覚障害に応じた介護		
7	(3)聴覚・言語障害に応じた介護		
8	(4)重複障害に応じた介護		
9	(5)内部障害に応じた介護		
10	(6)重症心身障害に応じた介護		
8	～夏期休業～		
9	3 障害のある人の生活の理解Ⅱ (1)知的障害に応じた介護	・定義や原因疾患，心理・生活ニーズを理解し、支援のあり方を考える。 ・医学的側面から学び、生活上の困りごとを理解する。	☐ 講義 ☐ DVD視聴 ☐ グループワーク
10	(2)精神障害に応じた介護		
11	(3)高次脳機能障害に応じた介護		
12	(4)発達障害に応じた介護		
1	(5)難病に応じた介護		
12	まとめ 事例で学ぶ		
1	(1)肢体不自由に応じた生活支援の実際	・今まで学んできた他教科の知識も活かして考察する。 ・各専門職の役割を理解するとともに、各専門職との連携における介護福祉職の役割を理解する。	☐ 演習 ☐ グループワーク
	(2)視覚障害に応じた生活支援の実際		
	(3)聴覚障害に応じた生活支援の実際		
	(4)内部障害に応じた生活支援の実際		
	(5)知的障害に応じた生活支援の実際		
	(6)精神障害に応じた生活支援の実際		
	(7)発達障害に応じた生活支援の実際		
	(8)難病に応じた生活支援の実際		

担当者からのアドバイス	●授業内容や指示の聞き逃しを避けるため、欠席しないように努めましょう。 ●授業後及び考査前には十分に復習し、理解の促進と知識の定着を図りましょう。 ●事例での学習は、積極的に取りくみ自分の考えをまとめるようにしましょう。 ●課題や宿題などは指示された期日を守って提出しましょう。

教科名	科目名	単位数（時間数）	学科・学年
福祉	生活支援技術（医療的ケア）	2単位（70時間）	福祉科・3年
教科書（発行所）		生活支援技術（実教出版）	
教科書以外の教材（発行所）		医療的ケア（中央法規）	
目 標	○介護従事者として、医療的ケアを必要とする利用者に安全で的確な喀痰吸引、経管栄養、医療職との連携などについて理解する。 ○介護従事者として、医療的ケアを必要とする利用者に安全で的確な喀痰吸引、経管栄養を実施できるよう、関連する技術を身に付ける。		
評価方法	☐ 授業への参加姿勢、ノートの記載充実度。課題・宿題等の提出状況と内容充実度。 ☐ 演習への参加状況、実技練習への取り組み姿勢及び実技試験結果。 ☐ 小テストにおける得点。		

月	学習内容	ねらい	学習活動
4	オリエンテーション	・使用教材と授業概要を知る。	
5	第5編 医療的ケア 第3章 高齢者および障害者の経管栄養	・消化器系の構造と機能、経管栄養の基礎的知識を理解する。	☐ 講義 ☐ 動画視聴 ☐ 演習
6	(1)経管栄養の基礎知識	・経管栄養の必要物品や実施手順、留意点について学ぶ。	
7	(2)経管栄養の実施手順 *演習	・シミュレータを用いた演習を行う。	
8	～夏期休業～		
9	第2章 高齢者および障害者の喀痰吸引	・呼吸器系の構造と機能、喀痰吸引の基礎的知識を理解する。	☐ 講義 ☐ 動画視聴 ☐ 演習
10	(1)喀痰吸引の基礎知識 (2)喀痰吸引の実施手順(1) 口腔内・鼻腔内吸引	・喀痰吸引の必要物品や実施手順、留意点について学ぶ。	
11	(3)喀痰吸引の実施手順(2) 気管カニューレ内部の吸引 *演習	・シミュレータを用いた演習を行う。	
12	第1章 医療的ケアの理解	・医療的ケアにおける介護従事者の役割を理解する。	☐ 講義 ☐ 動画視聴 ☐ 演習
1	(1)医療的ケア (2)安全な療養生活 *演習 (3)清潔保持と感染予防 (4)健康状態の把握	・医療的ケアに関連する倫理や法規について学ぶ。 ・感染予防や危機管理について理解する。	
担当者からのアドバイス		●授業内容や指示の聞き逃しを避けるため、欠席しないように努めましょう。 ●授業後には十分に復習し、理解の促進と知識の定着を図りましょう。 ●演習は決められた回数以上を必ず行い、技術を身に付けましょう。 ●課題や宿題などは指示された期日を守って提出しましょう。	